

三種祓（さんしゅのはらひ）

とほかみえみため
とほかみえみため
とほかみえみため
祓ひ給ひ清め給ふ

身禊祓（みそぎはらひ）

高天原に神留ます 皇御祖神 伊佐那岐命 諸神御禊の 大み時に なりませる神
八十狂津日の神 大狂津日の神 神直日の神 大直日の神 底津海津見の神 底筒男命
中津海津見の神 中筒男命 上津玉積の神 上筒男命
および祓戸の 諸神々 諸々の 障穢を 祓ひ清むることのよしを 平けく安らけく
御いさみたまひて 聞こしめせと ます

一二三祓（ひふみのはらひ）

ひふみよいむなやこともちろらねしきるゆゑつわぬそおたはくめか
うをゑにさりへてのますあせえほれけ

大祓（中臣祓）

高天の原に神留座す 皇親神漏岐神漏美の命をもて 八百萬の神等を 神集に集給
ひ 神議に議給ひて 吾皇御孫の尊をもて 豊葦原の水穂の國を 安国と平けく
所知食と事依し奉き 如此依し奉し國中に 荒振神等を 神問しに問し給ひ 神掃ひ
に掃ひ給ひて 語問し 磐根樹立艸の片葉をも 語止しめて 天の磐座押放ち 天の磐戸を
押開き 天の八重雲を 伊豆の千別に道別て 天降し依し奉き

如此依し奉り四方の國中に大倭日高見の國を安國と定奉て下津磐根に
宮柱太敷立 高天の原に千木高知て 皇御孫の尊の美頭の御舎に仕奉て天の御陰
日の御陰と隠く座て安國と平けく所知食す 國中に成出る天の益人等が過ち犯
けむ 雑々の罪事咎崇り天津罪とは 畔放ち 溝埋 樋放ち 敷時 串刺 生剥 逆剥 糞屎
許々太久の罪を天津罪と法別け 国津罪とは 生の膚断 死の膚断 白人胡久美 己が
母を犯し 己が子を犯し 母と子と犯し 子と母と犯し 畜犯せる罪 昆虫の災ひ
高津神の災ひ 高津鳥の災ひ 畜仆し 蟲物せる罪を地津罪と法別出して 許々太久の
罪出む 如此出ば

天津宮の事を以て 天津金木を 本末打切て 千座の置座に置足はし 天津清麻を
本末苜断八津針に取り辟て 天津祝詞の 太祝詞事を以て宣る 如此宣らば 天津神は
天の磐戸を押開き 國津神は 高山短山の伊穗理を 撥別て 洩るる 処無く 聞食さむ
如此聞食ては 種々の罪は 不在と 科戸の風の 天の八重雲を 吹放ふ如く 朝夕の霧
を 朝夕の風の吹拂ふ如く 大津邊に居る 大船の舳艫の綱を 解放ち 大海原へ 押放つ
如く 彼方や 繁が本を 焼鎌の砥鎌を以て 打拂ふ如く

残れる罪は 不在と 祓ひ清むる事を 高山短山の末より 佐久良谷に 水落 瀧壺 早川の瀬
に流し座す 瀬織津比咩と云ふ神 大海原に 持出給ひてむ 如此持出給ひなば 荒潮の
潮の八百道の八汐道の潮の八百會に座す 速開都比咩云ふ 神齧み 呑みてむ 如此齧み
呑では 吸吹戸に座す神 息吹放ち 給ひてむ 如此息吹放ち 給ひては 根の國の底の國に
鎮り座す神 佐須良ひ 失ひ給ひてむ 如此佐須良ひ 失ひ給ひては 残れる罪は 不在者ぞ
と 祓ひ申し 清め申す事の由を 天津神地津神八百萬の神等に 平けく 安らけく 御い
さみ 給ひて 聞食せと申す